二〇一〇こんぴらエンタメかわらばん 号外 第2号

2010年
10月11日(月・祝)

十月十一日(月・祝)

入場無料

金刀比羅宮例大祭奉祝奉賛行事

浪曲師 春野恵子

テレビ「電波少年的東大一直線」に、お笑い芸人坂本ちゃんの家庭教師として出演していたケイコ先生が琴平町へやって来る。今回、浪曲師、春野恵子として、浪曲「田宮坊太郎」を披露。三味線に合わせて語る讃岐が舞台の物語、お楽しみに！

●十月十一日(月・祝)午後1時～　於　神事場特設ステージ

十一月五日(金)

入場無料

第二回 こんぴらエンタメ落語会 天領榎井 お寺寄席

笑福亭 智之介

白鷺亭 楽笑

つる家 白扇

上方落語界のホープ、笑福亭智之介さん、満を持して琴平参上。今宵は、琴平で喋り倒しまっせ！笑福亭智之介さんの名前はちょっと・・・という方も、人気テレビ番組(爆笑レッドカーペット)に出演した唯一の落語家、満点大笑いとくれば、思い出す方も多いのでは。そんな笑福亭智之介さんが、お寺での高座にあがります。

また、大学時代の落語研究会で笑福亭智之介さんの先輩だった白鷺亭楽笑さん、魅惑のアラフォー、独特の雰囲気を持つ、つる家白扇さんといったアマチュア落語家も出演。笑福亭智之介さんが二席、白鷺亭楽笑さんとつる家白扇さんがそれぞれ一席ずつ披露。果たしてどんな寄席になるのやら。をうご期待！

●十一月五日(金)午後7時～
於　興泉寺(榎井六条)

十月十六日(土)

入場無料

こんぴらキネマ上映会 野外で映画を楽しもう

阿修羅城の瞳

劇団☆新感線の大人気舞台を映画化。主演は市川染五郎と宮沢りえ、脇を固める俳優陣も渡部篤郎、樋口可南子、小日向文世など個性派揃い。かつて鬼を退治していた男と、真実の恋に落ちると鬼(阿修羅)になる女の悲しくせつないラブ・ストーリー。

町人Fさんは、「ぜひ、小学校運動場の野外特大スクリーンで、迫力ある映像を堪能してもらいたいなぁ。それに、旧金毘羅大芝居でのロケもあったから、知っている場所が出て来るっていう楽しみもあるよね。おもしろそうなイベントが目白押しだけど、このプロジェクトを、琴平の町の元気につなげたいっていうのが、若い衆みんなの気持ちかな」普段クールな町人Fさんの心意気が見えた瞬間だった。

にっぽん美女物語 女の中の女

東京神楽坂の小料理屋の娘が主人公。主人公には姉、鯛子と鮎子、妹さよりがいる。そして、主人公の名前は、生駒ひらめ。すでにコメディーのにおいが・・・ひらめ以外の姉妹は揃って美人。ひらめだけが美人に程遠く、おまけに自由奔放、大酒飲みで、オネショの癖がいまだに直らない。そんなひらめが、ひょんなことから母親むつと一緒に四国遍路の旅に出る。旅はもちろん珍道中。研ナオコ演じるひらめのハチャメチャぶりから目が離せない。琴平の町での珍道中エピソードとは…？

●「阿修羅城の瞳」「女の中の女」ともに
十月十六日(土)
午後6時30分～
於　琴平小学校運動場

こんぴら活弁士、発表に向けて稽古中！

映画にまだ音声がなかった頃、映画の上映中、スクリーンの横に立ち、映画の内容を解説した活弁士。そんな活弁士をこんぴらエンタメ流に復活。現在、地元有志らが、無声映画の語りや、今夏、実施した、歌舞伎絵看板の映像に合わせて解説する「ナイト・アート」に挑戦すべく、練習中。この冬のお披露目、をうご期待！(写真は練習風景)「ナイト・アート」を鑑賞した地元若い衆の兄貴分、町人Tさん(通称〝委員長〟)は、「おもっしょいなぁ。歌舞伎の絵看板に描かれている人物や動物が動くと、リアルやし、なんだか生きているみたいやもんなぁ。それにやっぱり解説があると全然違う。その場面がよくわかるし。活弁士さんが育って、ナイト・アートを琴平町の夜の名物イベントにしていけたらいいなぁ」町人Tさんの野望は尽きない。

今月のヒトコマ

いくら秋とはいえ、何を見ても食べ物っていうのはどうなん…

品質優秀 美味珍膳 ガーリック侍

◆濃口醤油

◆旨み味噌

◆ごまふりかけ

町人Nさん

肉料理はもちろんのこと、ぜひカツオのたたきに使ってほしい醤油。ご飯のおかわりがとまらない味噌。ちょい足しで絶品のごまふりかけ。甲乙付け難し！

町人Uさん

どれも自信作。どっかの誰かさんは、あまりのおいしさにダイエットを中止していたなぁ。…って僕のことやけど。

こんぴら門前街うまいもん本舗
【電　話】0877-73-5525
【FAX】0877-73-5527

今後の予定

◆十一月二十八日(日)
於　玄龍寺(榎井西中)
こんぴらキネマ上映会
「写楽」他
円尾敏郎キネマ講座

◆十二月四日(土)
於　象郷農協ふれあいセンター
こんぴらキネマ上映会
「にっぽん美女物語
女の中の女」
こんぴら活動弁士無声映画
「子宝騒動」他　上映会

隠居のつぶやき

今は昔、レトロな昭和の時代、こんぴらには、数多くの映画館や芝居小屋があったんじゃ。栄町の希望館(旧金陵座)、松竹、日本館、榎井旗岡の寿座、そして旧金毘羅大芝居(金丸座)も当時の小松町で無声映画などを上映していたのじゃ。小さな町に五箇所もの映画館。まさにこんぴらさんは映画天国だったんじゃ。ところが、高度成長期に入り、猛烈なテレビの普及とともに、映画産業は衰退…栄華を誇っていた(ダジャレではないぞ)町内の映画館も全て廃館となってしまった。そこで、二〇一〇こんぴらエンタメプロジェクトでは、一日限定ではあるが、様々な趣向を凝らし映画の町〝こんぴら〟を復活させる。小学校運動場(特大スクリーンでの上映会)、玄龍寺でのお寺キネマ、無声映画の活弁発表会。昔の映画館の記憶があるわしら世代からシネコン育ちの孫世代まで、世代を問わず映画の魅力を存分に楽しんでもらえたらと思うとるんじゃ。

編集・発行
2010 こんぴらエンタメ 全国発信プロジェクト 実行委員会
瓦版屋　遅筆堂点々

※すべて入場料は無料です

主催:琴平町商工会内こんぴらエンタメ全国発信プロジェクト実行委員会
後援:琴平町・琴平町教育委員会・琴平町観光協会 お問合せ:琴平町商工会:電話0877-73-5525
平成22年度 地域資源∞全国展開プロジェクト